

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年3月28日

スタッフ 6名

事業所名 はぐはぐ子ども村西都

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	利用定員にあった環境作りをしている。	室内外ともに活動スペースは十分に確保できている。
	2	職員の配置数は適切である	6	0	人員は満たしている。	適切である。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	1	車いすに対応している女子トイレがある。	玄関の上り口に段差があるので検討したい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	朝礼昼礼等で職員間で話し情報交換、共有している。	話しやすい環境を作り関連に意見が出せるような場を作っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	全職員で回覧し共有している。	書面に改善できる回答書等を発信する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	保護者には書面にて伝えている。	ホームページに掲載されていることを伝えている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	0	保護者評価をしている。	貴重なご意見を踏まえ改善できる部分は積極的に検討していきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	外部の研修の他ケース会議、研修後の報告等で質の向上に努めている。	研修内容を職員間で共有し日々の療育に生かしている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	保護者、各療法士、保育士等の意見を聞き計画を作成している。	今後も続けていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	アセスメント用紙を使っている。	今後も使用していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	季節に合わせた活動計画を行っている。	職員間で基本のプログラムをもとに季節に合ったものを話し合い活動計画を検討している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	2、3か月に一度会議して代えている。	各療法士のカンファレンス内容も取り入れ個別に合ったプログラムを検討する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	0	毎日の課題、長期休みのプログラムを作成し取り組んでいる。	昼礼、ケース会議にて職員間で検討している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	変化が生じたときに職員間で確認しながら検討している。	専門講師を招いて小集団の中で活動してきた。意欲的に取り組む姿勢が見られた。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	朝礼、昼礼などで確認している。	児発管がこまめに伝え、支援内容や役割分担を明確化し職員間で共有している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	振り返りを皆とし次への関わりを話したり記録している。	皆で話し合い、共有し次の支援に生かしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	毎日の記録に目標ごとに記録し支援につなげている。	支援記録より6か月表を作り個人の困り感をケース会議で検討している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	月別やケース会議等で見直し協議している。	個々の課題を把握し計画の見直しの必要性を判断して会議等で協議している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	組み合わせるようにしている。	組み合わせている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	保護者、相談支援員、児発管、その他必要に応じて心理士、学校の担任等参画している。	現状維持。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0	情報共有できている。	急な下校時間の変更など保護者からの連絡と共に学校からも連絡が来ることがあり情報共有は良好な状態である。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	0	該当児なし。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	0		担当者会に参加している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	2		担当者会議にて情報提供していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	0	同法人に児童発達支援センターがあるので連携している。。	同法人に児童発達支援センターがあるので相談し、助言をもらっている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	5	同法人の日中一時支援の児童と交流はある。	他の児童クラブや児童館、習い事等にて利用している児童が増えている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	1	施設長、児童発達支援管理責任者が参加している。	今年、基幹相談支援センターが発足し会議に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	保護者のお迎え時に様子を話したり情報交換をしたりして共通理解している。	保護者と成長の喜びや課題を話しやすい環境作りを心掛けている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	1	書面にて保護者に伝えている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	契約時に丁寧に伝えている。	玄関にファイリングして設置いつでも見やすいようにしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	保護者から相談があればその都度迅速に応じている。	お便りなどを通じていつでも相談を受けられることを周知し支援を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4	コロナ禍の為中止になっている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	迅速に情報収集をし対応している。	苦情が出た場合の体制も整っており迅速に対応できている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	毎月お便りを発信している。また年1回ニューズレターを発行している。	お便りに写真を掲載して活動の様子や行事予定を知らせている。
	35	個人情報に十分注意している	6	3	職員も周知している。	全職員で周知し細心の注意をしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	お迎え時に話しやすい環境を整えている。	メールや電話でも対応している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3	コロナ禍の為中止になっている。	地域のお祭りや法人主催のイベントも再開できるように考えていきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	0	避難訓練をしておりマニュアルは室内に掲示している。	災害を想定した避難訓練は行っており、契約時や年度初めに避難場所等伝えている。防犯、感染症については保護者に説明不足を感じているので改善したい。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	洪水時に避難場所へ移動する避難訓練も実施している。	AEDを設置している。数年に一度消火訓練、AED訓練も取り入れている。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	全職員が順番に県主催の研修に参加している。	研修後事業所内で勉強会をしている。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	0	子どもの身に危険が生じる恐れがある場合と想定はしているが基本本児へ身体拘束をすることはしない。もしやむを得ず拘束することがあった場合は速やかに状況を保護者に伝える。	契約時に児発管が丁寧に説明し保護者に理解を得ていく。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1	保護者に確認し連携を取っている。	保護者から相談がある場合には職員間で共有して対応する。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	ヒヤリハットが発生した場合報告書を作成し、職員間で周知している。	職員間で声掛け危機管理を心掛けている。